

～郷土資料の保存活用～
収蔵施設整備に関する意見書

令和4年8月4日

所沢市社会教育委員会議

1. はじめに

現在、所沢市では、郷土資料に関する既存施設を見直し、収蔵施設整備に向けた検討が進められており、今任期の社会教育委員会議では、収蔵施設が資料を保存する施設としての役割・機能だけでなく、社会教育法に基づく社会教育施設としての役割・機能を果たせるように、「郷土資料の保存・活用」をテーマに審議を進めてきた。社会教育法は、人々があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、実際生活に即する文化的教養を高めることができるような環境醸成を社会教育行政の任務としている（社会教育法第3条）。社会教育施設は、最も代表的な社会教育の実践の場であり、収集した資料を保存し、研究するだけでなく、社会教育を基盤とした「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に発展する学びと活動の好循環が生まれるような地域の拠点施設となることが求められている。本意見書は、収蔵施設整備検討をさらに進めていくにあたり、社会教育の視点から具体的取組みをまとめたものである。

2. 具体的取組み

(1) 事業計画と準備への要望

- ① 市民学芸員、民俗資料保存会の活躍の場
- ② 大人と子供の社会科見学の実施
- ③ 市民の郷土学習の場
- ④ 子供たちの郷土愛の事業
- ⑤ 中学生、高校生、大学生とのつながり

(2) 配慮してほしい事項

- ① 施設完成をイメージしながら計画を推進
- ② 昔・今・未来に思いを巡らせる施設
- ③ 施設完成後の協力市民を意識して計画
- ④ 施設に関わる多様な人達の声
- ⑤ 子供たちが興味・関心を持ち、好奇心を高めるような施設

※詳細は別表参照

3. まとめ

今後、収蔵施設整備に向けて整備計画が策定される。既存施設を見直し、収蔵施設を整備するということで、設置場所として例えば文化財保護課のふるさと研究グループがある生涯学習推進センターを見直して収蔵施設を整備していくことが考えられる。生涯学習推進センターは、市民大学や市民学芸員養成等の事業、郷土資料の常設展示や企画展示を行い、サークル・団体の活動場所にもなっている地域の学びの拠点施設である。ここを見直して収蔵施設を整備することで、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に発展する社会教育施設となっていくのではないか。また、収蔵施設の設備が充実することで、人々の学びへのきっかけにつながっていくので、資料にも利用者にもやさしく安全な施設構想から施設の展示ケースや照明に至るまで、魅力的な展示ができるような質の高い設備を求めたい。そして、すべての人が主人公となる開かれた郷土学習の施設という観点から、多言語使用等の情報保障、ユニバーサルデザインへの配慮、新しいデジタル技術の活用やオンライン学習の導入等の検討も課題である。

今回の社会教育委員会議の意見が反映された施設ができることを期待するとともに、社会教育施設の役割を踏まえた運営がされているかを、社会教育委員会議で見守っていきたい。

別表 想定される事業

取り組み	内容	協力者	課題
市民ボランティアの活用	収蔵施設計画から市民ボランティアが関わり、完成後に市民ボランティアとして説明員や展示スタッフ、事業の協力者として活動する。	市民学芸員 民俗資料保存会 郷土史に詳しい市民	市民ボランティアの資質向上のための研修をする必要がある。
大人と子ども対象の施設見学と周辺施設を巡る見学ツアー事業	大人と子どもを対象とした施設見学を行う。収蔵施設だけでなく、埋蔵文化財調査センターや航空発祥記念館、黄林閣等を巡る見学ツアーを実施する。所沢の歴史に深く関わりがある鎌倉街道と小手指ヶ原の合戦や三富の開拓等、テーマ別に分けたツアーも実施する。	市民学芸員 民俗資料保存会 学校 公民館	休日に家族で見学できるようなルートを作ることや、子ども達の日常生活での学びにつながるような展示が必要である。
市民の郷土学習	鎌倉街道と小手指ヶ原の合戦や三富の開拓、航空発祥の地である所沢飛行場等、所沢の歴史をテーマごとに学べる展示や講座、見学ツアーを実施する。また、市内にとどまらず周辺自治体と連携して市民の好奇心に発展する多様で広域なテーマ設定と講座や展示（イベント）の交換・交流・相互学習等を期待したい。 ○周辺自治体連携テーマ例 ・ 廃線となった西武安比奈線や羽村山口軽便鉄道（多摩湖・狭山湖の歴史） ・ 重松流祭囃子をはじめとする多種多様な民俗無形文化財の広がり ・ 黄林閣の松永安左エ門や入間市黒須銀行を設立した渋沢栄一をはじめとする（知ったら身近だった）歴史上の人物 ・ 「だんべ言葉」をはじめとする所沢地方の方言	関係団体 関係機関 郷土史に詳しい市民	学習後の活動につなげていくためにも、市民ボランティアや団体との連携が必要である。
家庭教育学級での施設見学	市内小中学校で開校されている家庭教育学級を対象とした施設見学を実施する。家庭での教育につなげるために、子どもの学習内容の視点と生活者としての視点で施設を見学する。	市内小中学校 P T A	家庭教育学級生が興味を持つテーマ設定が必要である。
食文化に触れる展示と体験事業の実施	所沢の食文化の歴史や所沢で広まった理由を学べるコーナーを設置する。うどんや団子、お茶等、所沢の食文化に触れる体験が出来る事業を実施する。	市民ボランティア 協力者	体験を実施するためには、設備を整備していく必要がある。

別表 想定される事業

取り組み	内容	協力者	課題
伝統的な生活技術の展示・体験コーナー	機織りの体験や養蚕技術の映像コーナー等を設け、市民の生活に身近な物の歴史を学ぶことができ、例えば農機具のレプリカや繭クラフトを作ってみるなど実際に技術に触れることが出来る体験事業を実施する。また、機織りなどの技術の伝承者養成講座を開催し、体験事業ができる人材の育成を行う。	市民ボランティア協力者	伝統的な生活技術を知っている方が少なくなっているため、映像等で将来に向けて保存していく必要がある。
“未来の所沢” 絵画・作文	未来の所沢をテーマにした絵画・作文コンクールを実施し、収蔵施設内で作品の展示や発表会を行う。	市内小中学校	絵画を展示するスペースを収蔵施設に整備していく必要がある。
小学生の郷土学習	小学校の郷土学習で学校と連携し、収蔵施設を活用してもらう。	市内小中学校	小学校の教育課程との調整が必要である。
中学生、高校生、大学生ボランティア	中学生、高校生、大学生ボランティアを募集し、施設説明や各種事業に協力してもらう。中学生の職場体験や、高校生、大学生のインターン実習の積極的な受入れを行う。	市内小中学校 市内及び近隣の高校、大学	計画段階から学生ボランティアに関わってもらう必要がある。
学生によるプレゼンテーション大会	郷土資料や収蔵施設をテーマに、学生による企画のプレゼンテーション大会を実施する。素晴らしい企画内容をプレゼンテーションした学生には賞を授与する。	市内小中学校 市内及び近隣の高校、大学	学生が参加してみたいと思うように、広報を充実させて関係機関へも働きかけていく必要がある。
多文化共生を意識した展示	外国人市民や留学生が収蔵施設に訪れて所沢を知り、体験することが出来るように、多言語ややさしい日本語で対応できるようにする。	関係団体 関係機関	外国人市民や留学生が何度も訪れ、市民との交流の場となることも必要である。